

## シンポジウムプログラム

### 広島サッカースタジアム建設予定地発見の近代遺構を考える —歴史的価値と保存・活用の検討—

〈日 時〉 2021 年 10 月 10 日（日） 13:00～17:00

〈主 催〉 芸備地方史研究会

〈共 催〉 芸備友の会

〈後 援〉 日本考古学協会

〈会 場〉 オンライン（Zoom）

〈参加費〉 無料

〈申込先〉 geishi@hiroshima-u.ac.jp

※配信の都合上、申し込みは先着 200 名までとなっております。

#### 《趣旨》

現在、広島市中区の広島サッカースタジアム候補地において発掘調査が進められています。この発掘調査において、旧陸軍中国軍管区輜重兵補充隊施設と推定される遺構がきわめて良好な状態で発見されました。広島市には、国内の研究者や研究団体、平和運動団体、国内外の平和を願う個人から遺構保存の要望が次々と提出されています。しかし、広島市は近代遺構の一部切り取りを実施し、近代遺構の取り外しと下層の近世遺構の調査を継続しています。

今回の発掘調査に関する報道は、新聞やテレビなどを通じてたびたびおこなわれていますが、広島市や発掘調査担当団体による現地説明会などを通じた成果の公表はきわめて少なく、広島市をはじめとする市民は調査状況や調査成果の詳細をほとんど知ることができない状況にあります。

こうしたことから、この度、早急に遺構の歴史的価値を多くの方々にお知らせし、その重要性について理解していただきたいと考え、シンポジウムを企画しました。また、大規模開発と遺跡の保存を両立し、さらには有効活用をしている例が国内外で数多く見られることから、そうした事例を紹介し、今回発見された近代遺構の保存とサッカースタジアム建設が両立することを知っていただくことはこの企画の大きな目的でもあります。

現在発掘調査が行われている広島サッカースタジアム予定地は、国史跡広島城跡の西側隣接地にあり、軍都広島の中核施設が存在した場所でもあります。近代遺構をはじめ、この地に残された遺跡が広島市の国際平和を希求する活動にとって欠くことのできない文化財と言えます。このシンポジウムを通じて、その活用について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

## 《日程》

13：00～13：20 開会・開会挨拶・趣旨説明

13：20～15：40 シンポジウム

### 基調報告 1

サッカースタジアム建設予定地発見の近代遺構と保存・活用について（考古学）

広島大学名誉教授 藤野次史

### 基調報告 2

近現代史研究の立場から見た原爆遺跡と戦争遺跡（日本史）

広島大学 75 年史編纂室准教授 石田雅春

### 基調報告 3

文化財保護行政からみた近代遺跡

—とくに軍事関連遺跡の調査と評価—（文化財行政）

広島大学客員教授 妹尾周三

### 基調報告 4

戦争の記憶と継承—近代日本の戦争遺跡研究（戦争遺跡研究）

元四川外国語大学教授 菊池 実

15：40～15：50 休 憩

15：50～16：00

スタジアム建設予定地発見の近代遺構に関する日本考古学協会からのメッセージ

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会委員長

16：00～17：00 討論会

コーディネーター

県立広島大学教授 鈴木康之

17：00 閉会